

フジタ100年のあゆみ

1869年～

近代化を目指し インフラ整備に尽力

1869年

初代 野村専太郎が新宿で「野村組」を創業(大和小田急建設)

1910年

初の本格的土木工事を実施(大和小田急建設)



成宗電車軌道敷設工事

藤田一郎・定市の兄弟が広島市で創業(フジタ)



藤田一郎(兄)

藤田定市(弟)

1928年

6,000tを超える鉄骨を使用した警視庁庁舎鉄骨工事を受注(フジタ)



警視庁庁舎鉄骨工事

1945年～

戦後の復興 高度経済成長を支える

1945年

広島と長崎に原爆が投下され、終戦を迎える



原爆投下直後の広島日赤病院復旧工事に従事(フジタ)
空襲で打撃を受けた新宿の街の復興に従事(大和小田急建設)

1962年

日本で培った実績を世界へ(フジタ)



南米に調査団を派遣

太平洋国際見本市日本館(ペルー)

1964年

東京オリンピック開催

1968年

日本の建設業で初めてVEを導入(フジタ)



駒沢公園オリンピック記念塔(フジタ)

1970年～

建設業からの飛躍 暮らしやすい街・環境づくり

1975年

世界初の海上空港「長崎空港」が完成(フジタ)



(撮影：1982年)

1983年

3支店でVEマイルズ賞受賞(フジタ)



1985年

都市開発事業を強化(フジタ)



広島アルパーク

埼玉県産業文化センター(ソニックシティ)

1989年

建設業界で初めて環境専任部署「地球環境室」を設置(フジタ)

1993年

マネジメントシステムとして「フジタ・エコ憲章」・「フジタ・エコ行動計画」を策定(フジタ)

1998年

大規模地震に備えた橋脚耐震補強工事を実施(大和小田急建設)



東名高速道路河内川橋の補強工事

2000年～

新技術開発で 災害などに備え未来をつくる

2011年

東日本大震災発生後、東北各地で復興工事を実施



再整備を行なった宮城県巨理郡山元町(フジタ)

2013-2015年

2008年に大和小田急建設が、2013年にフジタが、大和ハウスグループへ参画

2015年、フジタと大和小田急建設が経営統合



2016年

雲仙普賢岳の噴火を機に開発を始めた無人化施工技術において、最新型の簡易遠隔操作装置「ロボQS」を開発



国道220号応急復旧の様子

2017年

独自開発の「鋼製パネルダンパー」や「超高強度コンクリート」で支える全国初となる60階建てマンションが完成



ザ・パークハウス西新宿タワー60

2018年

全国初となるコンクリートダム撤去工事が完了



発破解体する荒瀬ダム

2021年

設計から施工、建物維持管理にわたって一貫してBIMを活用した研修施設が完成。3つの国際認証^(※1)と2つの国内認証^(※2)を取得



大和ハウスグループみらい価値共創センター

※1 LEED®・WELL®・SITES®
※2 BELS・JHEP

フジタの事業紹介

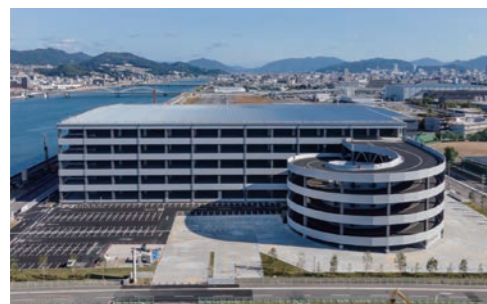
建築事業



お客様のニーズに合った施設を、適確な企画・提案、最適で合理的な設計、長年の技術開発に裏付けられた施工技術でご提供します。建物の建設のみならず、その後の維持・管理までも一貫して行える体制を構築しています。



中部国際医療センター(2021年)



DPL広島観音(2021年)

土木事業



道路の建設や土地の造成などといった新たに作り出すインフラ整備工事から、災害に備えた耐震補強や改修工事、構造物の撤去など時代のニーズにお応えします。安全・安心な暮らしの土台をつくるため、最新技術の活用を進めるほか、独自技術の開発を行なっています。



気仙沼太陽光発電所(2021年)



新三国トンネル(2021年)

都市再生事業



建設技術を基盤とする企画提案、開発計画の立案、地権者の合意形成と権利調整。さまざまな事業手法と許認可などの専門知識を駆使するノウハウを用いて、お客様の資産価値・企業価値の向上に寄与します。



本厚木駅南口地区第一種市街地再開発事業(2021年)



神宮前123ビル(2020年)
撮影 (株)エスエス黒沼芳人

海外事業



海外進出を計画するお客様に向け、事業戦略の要となる工場や物流・営業拠点の建築を短期間かつ高品質で実現します。国やエリアで異なるビジネス環境・気候・文化などに精通した現地スタッフがお客様の海外戦略に合わせて最適なプランをご提供します。



内山工業ユカタン工場(メキシコ、2021年)



ヴァラナシ国際協力・コンベンションセンター(Rudraksh)(インド、2021年)

事業運営の基盤

環境への配慮

「フジタ・エコ憲章」に基づき、環境を経営の柱のひとつとして取り組んでいます。省エネと快適さを両立させたオフィスビルの建築をはじめ、環境にやさしい施工、水処理や再生可能エネルギー事業を通じて、持続可能な社会づくりに貢献します。

フジタ・エコ憲章

基本方針

フジタは、建設事業が環境問題と深く関わっていることを認識し、企業の社会的責任である「事業活動における環境負荷の低減」、建設業本来の役割である「快適な環境の実現」、並びに「環境への取り組みを実践する企業基盤の確立」を環境に関する経営の3つの柱とし、あらゆる企業活動において環境に配慮した積極的展開と継続的改善を推進する。

行動指針

1. 事業活動における環境負荷の低減

全ての事業活動において、環境に係る法令等の社会からの要求事項を遵守するとともに、建設ライフサイクルの全ての段階で環境課題を抽出・検討し、環境汚染の防止・予防や環境負荷の低減に積極的に取り組む。

2. 快適な環境の実現

生態系に配慮した快適な環境を社会へ提供するため、環境の保全、再生、創造を目指した技術開発、計画・設計における環境配慮、

並びにエンジニアリングによる新たな事業スキームの提供等を積極的に推進し、顧客との合意形成のもとで、持続可能な街づくりや社会基盤の整備に貢献する。

3. 環境への取り組みを実践する企業基盤の確立

全社一体となった環境マネジメントシステムを構築し、全ての事業活動において、これを効果的に運用し、継続的改善を図る。また社内外に積極的な情報開示を行い、広く社会とのコミュニケーションを進める。さらに社員一人ひとりに高度な環境保全意識の醸成を図る。

1993年4月策定 2012年4月改定